

新年のスタートということもあり、学志舎が最もこだわっていることの一つ、
「予習型授業」についてお話させていただこうと思います。

我々学習塾の目的は、「成績を上げること」が一番です。

ただ、一言で「成績」と言っても捉え方は様々です。

学志舎には勉強が得意な子、苦手な子、幅広く通塾いただいています。

200点台から～450点以上の生徒が通塾していますが、これまで多かったのは300～400点の成績中位層より上の生徒さんです。

勉強が苦手な生徒達にとっての悩みは、

「学校の授業がわからない、ついていけない」

「定期テストで点数が上がらない」

ということだと思っています。

生活の中心はあくまでも学校であり、その学校の授業がわからないということは、本当に辛いことだと思います。

その悩みに応えるために、学志舎では全ての生徒に対して

- ・通常学期中の授業＝予習型（学校の先取り）
- ・季節講習の授業＝復習型（土台作り）

で授業を進めています。

つまり、

春期講習：1学期の成績を上げるために前の学年以前の内容を復習

1学期：学校の授業の理解と定期テストの成績アップのために予習

夏期講習：2学期の成績を上げるために前の学年以前の内容と1学期の復習

2学期：学校の授業の理解と定期テストの成績アップのために予習

冬期講習：3学期の成績を上げるために前の学年以前の内容と2学期までの復習

3学期：学校の授業の理解と定期テストの成績アップのために予習

というサイクルで1年間指導をします。

塾での通常学期中の授業が学校の追いかけになってしまっただけでは、いつまで経っても学校の授業がわかるようにはならないですし、定期テスト前に塾で十分な対策の時間も取れないので、定期テストの点数も上がりにくくなってしまいます。

勉強が苦手な生徒に対して予習型の授業をすることは大変な指導ですが、各ご家庭の大切なお金と時間をいただいている以上、そこから目を背けるわけにはいきません。

もちろん、教育とは正解が1つに決まっているものではありませんので、いろいろな考えがあるかと思いますが、これが私ども学志舎が予習型の授業にこだわり続ける理由です。